

平成26年度補正予算による継続課題に係る 継続評価書 (平成25年度以降採択課題向け)

- 研究機関 : 日本電気(株)、日本電信電話(株)、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、富士通(株)、(株)日立製作所
- 研究開発課題 : ネットワーク仮想化技術の研究開発
II ネットワーク仮想化統合技術の研究開発
- 研究開発期間 : 平成25年度 ～ 平成27年度
- 代表研究責任者 : 日本電気(株) 情報・ナレッジ研究所 桐葉 佳明

■ 総合評価 : 適

(評価点 20 点 / 25 点中)

(総論)

今年度は素晴らしい仮想化統合ソフトウェアが完成されるなど、概ね順調に進捗しており、目標は達成できると期待される。

研究開発終了後において、OSS の開発体制を維持するとともに、更なる出口戦略を見据えた対応が望まれる。

(コメント)

- 仮想化統合ソフトウェアとして素晴らしいものが出来上がってきている。
- 素晴らしい成果が上がっているため、OSS の開発体制を維持し、エコシステムを構成できるよう今後の体制をしっかり作っていただきたい。
- 概ね問題なく進捗しており、目標は達成できると期待される。
- 終了後、特に OSS の維持等への出口戦略をもっと考えて欲しい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム 目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価5(評価点)

(総論)

今年度は現実的なユースケースに向けた研究の重点化が図られるなど、当初の目標は達成している。

来年度の実証実験では、具体的なサービスを想定した上で性能を確認する必要がある。

(コメント)

- 現実的なユースケースに向けた重点化が行われている。
- 性能目標をユースケースに合わせてしっかり定めること。
- 目標を達成している。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

限られた予算の中で効率よく執行するとともに、研究成果の展開等にも努力が見られる。

(コメント)

- 予算削減を受けて効率化した。
- アウトリーチ等にも努力している。改善されている。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

来年度の研究開発成果が見出せるよう、実証実験の実施計画を明確にして欲しい。

研究成果である OSS を今後グローバルに普及・展開するための方策をしっかりと検討して欲しい。

(コメント)

- 成果物である OSS をグローバルに展開するための対応が必要ではないか。
- ONOSなどの海外の同様の活動と連携するとともに、OSSをしっかりと普及、維持していく仕組みが必要ではないか。
- 実証実験がまだはっきりしない。成果がきちんと見えるような計画案が欲しい。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

限られた予算の中で、研究実施計画がよく取りまとめられている。

最終年度では、個別の研究開発の進捗を踏まえ、全体の歩調が合うような詳細計画の策定が望まれる。

(コメント)

- 縮小した予算の中でよく頑張っている。
- 実証実験、個別開発事項の進捗をきちんと踏まえ、最終年度で上手く歩調が合うような計画の詳細化が望まれる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

ベンダー間での協調連携が進んでおり、最終年度に向けてまとまりが出て来ているように感じられる。

(コメント)

- ベンダー間でのまとまりが出てきた。
- 上手く協調関係が進んでおり、バラバラ感が見られない。